

地域医療支援病院

小田原市立病院

Odawara Municipal Hospital

広報誌

No.16

2023

# エール



②③ 形成外科

④⑤ 院内迅速対応システムと対応チーム (RRT) の活動について

⑥⑦ 小田原市立病院からのお知らせ ⑧ 連携施設紹介

# 形成外科

形成外科は老若男女・身体の部位を問わず、患者さんが抱えているあらゆる問題に対して、専門的な知識・技術を用いて改善することをその使命としております。

小田原市立病院形成外科では体表にあるできもの・ケガ・キズ、顔面の骨折、お子さんの生まれつきの変形、さらにはワキガや多汗症、包茎、でべそなどの治療まで、幅広く対応しております。

どんなお悩みでも診察し、ご相談に応じますので、まずは外来にお越しください。

ここでは、当科で取り扱うことの多い皮膚とまぶた（眼瞼）の治療についてご説明いたします。

## 皮膚の治療（できもの、ケガ、キズ）

診察日にはできものがある部位やその大きさなどを確認し、手術方法や日程を相談します。

基本的には小さいものであれば外来の日帰りで局所麻酔による手術を行い、大きいものや皮膚がんなどの悪性腫瘍を疑うものについては入院や全身麻酔による手術をお勧めすることもあります。

火傷や皮膚を切る、ぶつけるなどをしてできたケガでお困りの方、あるいはケロイドや褥瘡（床ずれのこと）などのキズを治したいとお考えの方の治療も対応しております。

## 皮膚の治療（シミ、ほくろ、イボ、ニキビ跡、シワなど）

これらの治療では、美容治療のノウハウで対応することがあります。シミやほくろ、イボなどの治療では、外用薬やレーザー手術をお勧めすることがあります。レーザー照射後は一時的にかさぶたができ、むしろシミやほくろが濃くなったように見えることがありますが、適切な自己処置を行っていただければ、基本的には、かさぶたが取れると照射前より薄くなります。ニキビ跡にはピーリングやレーザー治療など、シワにはボトックス注射などを用いることがあります（美容治療となる場合、保険診療ではなく自費診療となります。）。

## まぶた（眼瞼）の治療

加齢やハードコンタクトレンズの長期使用などが原因で、眼瞼を挙げる眼瞼挙筋きよきんという筋肉が緩んでしまうと、視野が狭くなるほか、肩こりや頭痛などの症状を招くこともあります。このタイプの眼瞼下垂を、腱膜性眼瞼下垂けんまくせいがんけんかすいといい、眼瞼挙筋を元の位置に縫い直す手術（挙筋前転術）を行います。

このほか、余った皮膚が垂れ幕のように眼を覆ってしまうタイプ（皮膚弛緩症しかん）には皮膚切除術を、眼瞼挙筋の機能が弱いタイプ（先天性眼瞼下垂）には、額の筋肉と眼の組織を縫いつなぐ素材を使うことで、眉毛を挙げる力で眼瞼も挙げられるようにする、前頭筋つり上げ術を行っています。



症例写真 両側眼瞼下垂 左は術前、右は挙筋前転術 術後1ヶ月の写真

術前はカメラのフラッシュが見えないほど瞳孔が眼瞼に隠れてしまい、視野が狭くなっていましたが、術後は眼瞼が良好に挙上し、視野も広くなりました。まだ、術後の腫れが少し残っていますが、術後2~3ヶ月で腫れは消失します。

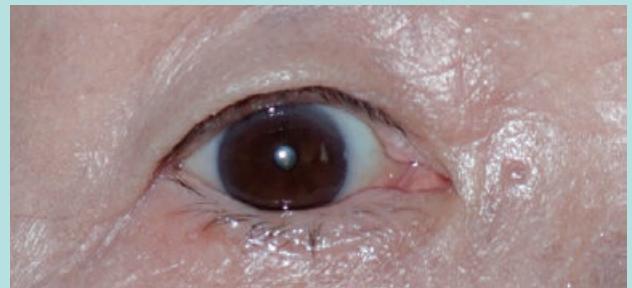
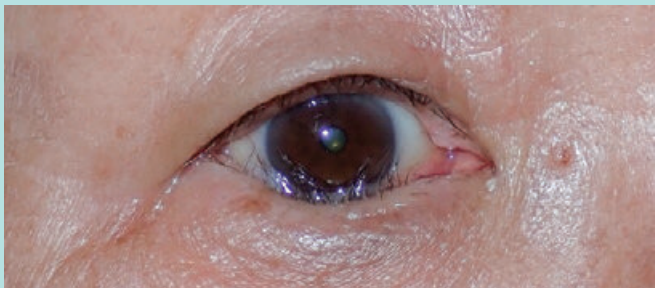


症例写真 左側眼瞼下垂 左は術前、右は前頭筋つり上げ術 術後3ヶ月の写真

術前は左側に著明な眼瞼下垂を認めました。他院で数回の手術を行っても改善が得られず、眼瞼挙筋の機能が消失していると判断し、前頭筋つり上げ術を行いました。

術後は右側とほぼ同じ程度に眼瞼を挙上できています。傷跡（眼瞼と眉毛上）はほとんど目立ちません。

眼瞼内反（逆まつげ）および眼瞼外反（“あっかんべー”の状態）は、術後の再発が多いことが問題とされます。当科では症状の強い方には2種類の手術を組み合わせることで、再発を予防できるように心がけております。



症例写真 右側下眼瞼内反 左は術前、右は術後5ヶ月の写真

術前は睫毛（まつげ）が眼球に接触しており、慢性的な痛みや違和感がありました。術後は睫毛が眼球に接触しなくなり、痛みなどの症状が改善しました。傷跡も目立ちません。

上記の眼瞼の手術は、術中に座っていただき改善の程度を確認するため、基本的に局所麻酔での手術を行います。術後、間もない時期は眼の周囲が腫れるため、遠方の患者さんには1泊2日の入院治療をお勧めすることもあります。また、小児の先天的な眼瞼の異常には、全身麻酔による手術もできます。

眼瞼痙攣（まぶたのピクつき）には、手術ではなくボトックス注射での治療を行っております。治療効果は数ヶ月で消失するため、繰り返しの治療が必要になりますが、施術時間は数分間であり、また痙攣の症状があれば保険診療を適用することができます。

以上、簡単ではありますが治療紹介とさせていただきます。

この他にも様々な治療を行っておりますので、まずは一度外来にご相談にいらしてくださいと幸いです。

今後も微力ながら、小田原市、および近隣自治体の皆様の健康促進に寄与して参る所存でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

## 診療案内

外来日	月	火	水	木	金
午前中	○	○	○	○	○

TEL 0465-34-3175 (代表)

受診される場合は、事前予約が必要ですが、緊急の場合は電話でご連絡ください。外国人の方は、院内に医療通訳が不在のため、日本語がある程度理解できる方と一緒に受診をお願いします。



HPIは  
こちらから！

# 院内迅速対応システムと対応チーム (RRT) の活動について

## 院内迅速対応システム (RRS) とは

当院は、平成21年に神奈川県西二次保健医療圏唯一の救命救急センターの指定を受け、高度急性期、急性期を中心とした急性期医療を提供する役割を担っています。そのため、日々、たくさんの救急患者さんが受診され、そのうち約半数が入院になりますが、当院のような急性期医療を担う医療機関では、ある一定の割合で入院後の患者さんに急激な容態変化（急変）が起こると言われています。入院患者さんが、ひとたび急変すると、心肺停止などの予後不良な状態となり、救命できても重度の後遺症を残すこととなります。その一方で急変する前に患者さんに見られる予兆に気がつき、心肺停止になる前に対処できれば、回復する可能性が高くなり後遺症も少なくなります。

近年、急変する入院患者さんの一部には、その数時間前から異常を示す兆候が見られることがわかってきました。

「RRS」は、急変による心肺停止などの重大な合併症を防ぐことを目的に、入院または来院中の患者さんの急変の兆候に現場の職員ができるだけ早く気づき、それを対応チーム (RRT) に連絡し、早期に介入することによって患者さんの急変を未然に防ぐための院内体制のことを言います。「RRT」は、医師や看護師などで構成され、組織横断的に活動するほか、定期的に会議を開催し、当院のRRSを統括しています。

※RRS: Rapid Response System (ラピッドレスポンスシステム)

※RRT: Rapid Response Team (ラピッドレスポンスチーム)

## RRTの活動内容

### ①システムによる対応

RRSを導入している医療機関において、このシステムにより対応する基準はさまざまです。当院では病棟や外来の看護師、検査技師などが、患者さんの様子がおかしい、いつもと違うなど、少しでも変化があればRRTに連絡するよう現場の職員に啓蒙しています。

### ②対応

現時点でRRTの活動は、平日の午前8時30分から午後5時15分までとしています。チームの救急科看護師が連絡を受け、迅速に患者さんのもとに駆け付け診察を開始します。医療的介入が直ちに必要な状態であれば、救急科の当番医師につなぎ治療を開始します。現時点で休日夜間は対応が困難で、この時間帯の急変には、日直や当直の医師、看護師が対応しております。



ビブスを着用し啓蒙活動を実施しています。

### ③システムの改善

RRTでは発生した事案のデータを集積し検討、将来同様の事案を回避できるよう、課題点や看護ケアの改善点をRRTの会議で共有しています。また、毎週2回、火曜日と金曜日の日中にRRTの医師と看護師が各病棟や外来部門を回診し、各スタッフに対応が必要な患者さんがいないかを確認したり、対応に困った症例について指導や助言をしております。



各病棟を回診して指導や助言を行います。



毎月1回会議を開催しています。

### ④システムの指揮調整

RRTは月に1回、チーム会議を開催し、症例の共有や、活動をより良くするための方策などを協議しております。

## さいごに

当院のRRSは、2023年度に発足したばかりです。現在のチーム構成員は救急科や麻酔科の医師、救急科看護師ですが、これからチーム構成員を増やし、活動の幅を広げていきたいと考えています。院内の患者さんが安心して治療を受けていただけるように、精一杯活動してまいりますので、ご理解の程、よろしくお願いいたします。

# 小田原市立病院からのお知らせ

## 紹介受診重点医療機関に指定されました

小田原市立病院は、令和5年10月から新たに「紹介受診重点医療機関」に指定されました。

「紹介受診重点医療機関」は、国が令和4年に、地域における医療機関同士の外来機能を明確化し、連携強化を目的に創設したもので、本院が行っている化学療法や放射線治療などの高度な外来診療が評価され、地域の重点的な外来診療を行うべき医療機関として、指定を受けました。

本院では、既に承認を受けていた「地域医療支援病院」の機能と併せ、地域の病院やかかりつけ医からの紹介患者に対する診療や救急医療、高度な医療などを行うほか、CT/MRIといった放射線機器による診断を行ってその結果をかかりつけ医へ提供したり、医療従事者の研修会を開催するなど、県西地域全体の医療サービスの向上を図り、地域の病院やかかりつけ医との役割分担や連携を行い、住民の皆さんが住み慣れた地域で安心して医療を受けることができるよう、さらに安定した医療提供体制の確保に向けて取り組んでいきます。



## 窓口等の移設について

患者さんの手続きを円滑に行うことができるよう、次の窓口等について、令和5年9月から、1階受付ロビーにある元正面玄関入口に移転しました。

**窓 口：**地域医療連携室、患者サポート相談、がん相談支援センター、入退院支援センター  
**外 来：**検査説明外来  
**入 院：**入院予定の方のお薬説明、アメニティセットレンタルのご案内

これまで1階受付ロビーに分散していた相談窓口等を一元化し、専用窓口とすることで、患者さんが相談しやすい環境づくりを行いました。また、検査説明外来や入院予定の方のお薬説明と入院時のアメニティセットレンタルのご案内の各ブースについても、同じ場所に集約しました。

患者さんがワンストップで各手続きを行うことが可能になったほか、スペースが広がったことにより、車いすの方でも利用しやすくなり、プライバシー保護についても配慮ができました。

## がん患者さんご家族の集い「ほっとサロン」

患者さんやご家族が当事者同士で自由に語り合える場として、「ほっとサロン」を開設しています。参加者は、がん患者さんやご家族、がん経験者が中心であり、がん相談員や臨床心理士などが事務局としてサポートします。お気軽にご参加下さい。



開催日：毎月最終水曜日 14:30~15:30 出入り自由

受付：がん相談支援センター窓口

参加費：無料

予約：不要

\*相談者に近い存在として一緒にサロンの運営をしていただく、がん経験者（ピアサポーター）も募集します。ご興味がある方、お待ちしております。

## 就労相談（がん、脳卒中、糖尿病など）

治療と仕事の両立へのサポートとして、社会保険労務士による就労に関する制度相談を行っています。そして、今年度からは新しくハローワーク職員による相談窓口を開設しました。専門の相談員が、患者さんの病状や治療状況と適正等を考慮し、就職に向けたきめ細やかなサポートを行います。

### <社会保険労務士との面談>

開催日：月曜日～金曜日 希望に合わせて日時を調整します。

### <ハローワーク職員との面談>

開催日：毎月第2水曜日13:00~16:00

受付：がん相談支援センター窓口

参加費：無料

予約：必要

### <問い合わせ先>

地域医療連携室（がん相談支援センター）

電話：0465-34-3175

## 栄養指導室

患者さんの症状に応じて栄養指導を行う栄養指導室も、2階中央採血室横からより外来に近い1階受付ロビーに移転し、併せて相談ブースを増やしました。これにより、患者さんの利便性が増すとともに、これまで以上に多くの患者さんに栄養指導を行うことができるようになりました。

地域医療連携室、患者サポート相談、がん相談支援センター、入退院支援センター、検査説明外来、入院予定の方のお薬説明、アメニティセットレンタルのご案内





渡辺 義弘  
院長

小田原市浜町、大工町通り交差点と七枚橋交差点の間に開業して18年目です。人生100年時代です。整形外科疾患の多くは命にかかわる病気ではありませんが、加齢に伴う痛みやしびれ、骨粗鬆症による骨折によって、歩行や日常生活に支障をきたす場合が少なくありません。これからは健康寿命を延ばすことが大切です。また、成長痛や側弯症など成長に伴う疾患、テニス肘などスポーツを行うときの障害にも対象となります。渡辺整形外科では生き活きとした生活が出来るよう、地域の皆様の元気な毎日を支えて参りたいと考えております。市立病院の整形外科や放射線科との連携により、手術やMRI検査の必要な方には速やかにご紹介出来る体制も取っております。敷地内の駐車場から院内までに段差はなく、車椅子用のトイレも準備しております。開

## 渡辺整形外科（整形外科）

業以来、『月刊渡辺整形外科』という小冊子を刊行しております。院長のコラムが好評です。ご自由にお持ち帰りください。



住 所：小田原市浜町1-6-4  
 電話番号：0465-21-5666  
 診療受付時間：午前8:00から11:30  
 （診療開始：8:30）  
 午後2:00から6:00  
 （診療開始：2:30）  
 休診日：日曜、祝日、第1、第3土曜日の全日と  
 それ以外の土曜日午後

## ひまわりメンタルクリニック（精神科）



小林 博子 院長 (左から2番目)

ひまわりメンタルクリニックは、21年前に認知症とともに生きる患者さんやご家族を応援したいという思いから始まりました。鴨宮駅北口の近く、下府中地区に位置し、その地域では仲間達と「しもふなかコンパス」で高齢になっても楽しく過ごせるような活動のお手伝いもしています。また、老年精神医学が専門で、認知症サポート医として認知症初期集中支援チーム員として活動しています。そして、どんな患者さんも、たとえ治療が難しい状況であっても、孤立せず、希望を失わず幸せに過ごせるようにと願っています。

昨今では、精神科診療に欠くことのできない画像診断を、小田原市立病院で教えていただき感謝しています。

2018年発足の小田原・箱根・真鶴・湯河原の一市三町若年性認知症を考える会では、小田原市立病院地域医療連携室の認知症看護認定看護師の方とお仕事させていただきました。これからも病診連携の中で、小田原地区で地域一体となり、リエゾンや多職種共同も含め、地域医療に貢献できれば大変嬉しく思います。どうぞよろしくお願いいたします。



住 所：小田原市酒匂1414-14-101  
 電話番号：0465-46-2181  
 診察時間：9:00~14:00  
 休診日：月曜日、土曜日、日曜日、祝日